

## 『年報』編集委員会からの報告

編集委員長 庄司俊作

(1) 1995年度大会での理事改選に伴って、委員長をはじめ編集委員が別記のように大幅に入れ替わった。そのため、同大会日程の遅れ等とあいまって、『年報 村落社会研究』第32集の編集作業が例年よりやや遅れていた。しかし、1月初旬には執筆予定者がほぼ全員決まり、目処がついた。

(2) 『年報』の特集に関しては、以下のような方針で臨んでいる。

第1に、1995年度大会のテーマ・セッション「村落研究と環境問題にかかる課題発掘」を特集テーマとする。そして、「環境問題が、村落研究といかに切り結ぶことができるのか、その糸口を探り出し、今後の研究の深化を図るための第1歩とする」(嘉田由紀子「1995年度大会テーマ・セッションへのお説い」)という問題意識に立脚し、編集原稿を集めること。

第2に、1995年度大会報告から可能なかぎり原稿を集める努力をするとともに、環境問題と村落社会との関連に対する観点を重視するなど、当学会の取り組みにふさわしい成果とするため、広範な会員の研究蓄積を中心に編集すること。

第3に、「環境」というカテゴリーとともに、地帯比較、地帯別接近をもう一つの柱として特集の構成を考える。地帯としては、都市近郊地帯、(中)山間地域、東海平坦・東北平坦地帯などに注目する。

1995年度最後の理事会で、『年報』は編集委員会がもっと裁量を発揮して編集に当たった方がよいという意見が出された。当学会の現在の運営状況を考えると、大会のテーマ・セッションをもとに特集の編集を行なう従来の方法を一気に変更することは難しいと思われるが、第32集は結果的に、8名の特集原稿執筆予定者のうち4名は、大会報告者等以外の方に独自なテーマで執筆をお願いすることになった。また、過去の実績に照らして、第32集は300頁前後を目安に編集することとする。従って、分量的に特集依頼原稿で一杯であり、今回も懸案の自由投稿は見合わせる。

(3) 分野別研究動向の執筆者は、以下の方々である。

①史学・経済史学・・・宇佐美英機氏 〒525 滋賀県草津市西渋川2-6-35

②経済学・農業経済学・・・安藤光義氏 〒300-03 茨城県稲敷郡阿見町阿見3998

茨城大学宿舎 501-12

③社会学・農村社会学・・・蘭 信三氏 〒811-01 福岡県柏原郡新宮町湊坂3-9-2

④外国研究(アジア中心)・・・北原 淳氏 〒651-11 神戸市北区泉台3-38-11

会員の方々は、各成果を関連分野の執筆者の方にお送りください。

(4) 1996年度大会は昨年度より日程が早まりそうである。年報は大会までの刊行が義務づけられおり、これまでの取り組みと残された期間を考えると、今後編集作業を一層迅速に進めていくことが必要である。原稿の締め切りは、特集が5月末、研究動向は6月末、である。原稿依頼に際しては、執筆者の方々にかなり無理なお願いを聞き入れていただいた。今後も協力のよろしきを得て、『年報』が予定通りに出版できることを目指し、努力したい。